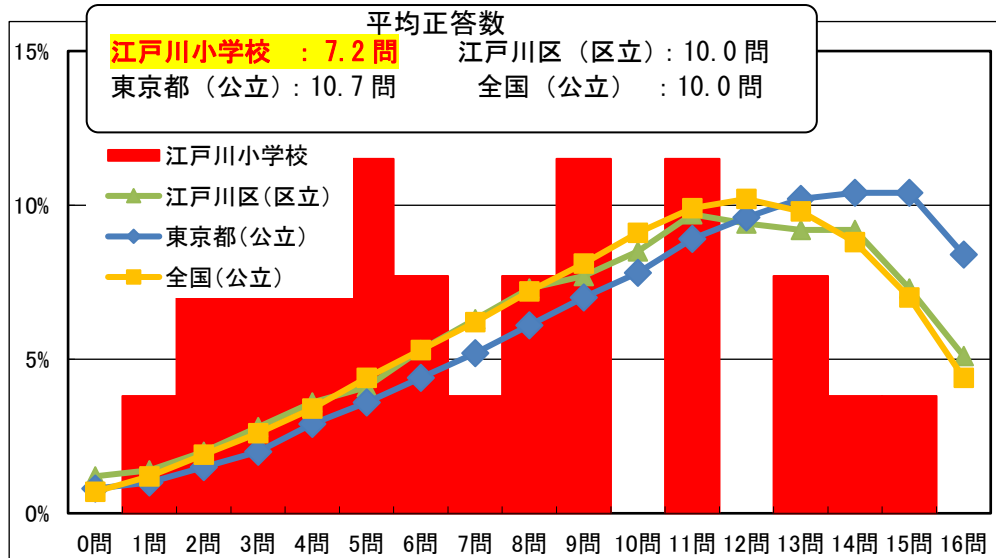
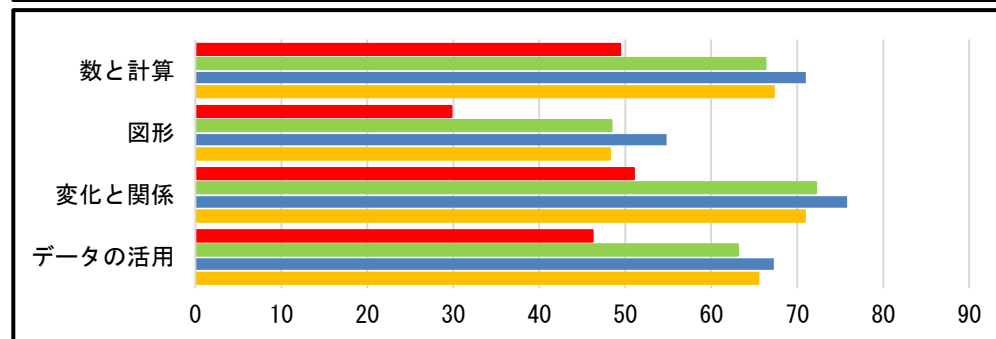
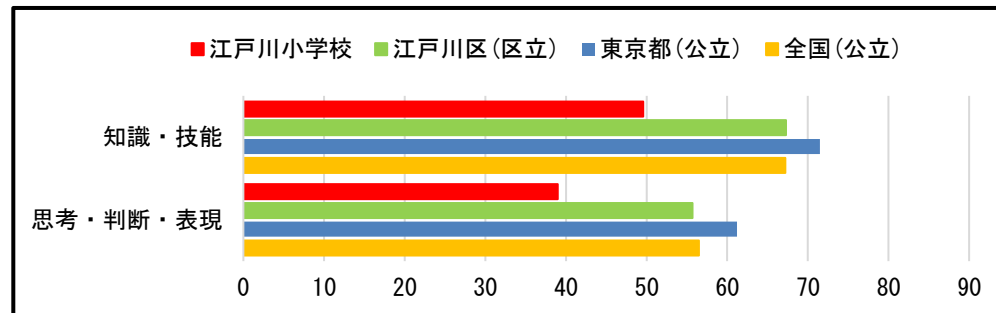


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】江戸川小学校

## 正答数分布



## 「領域別」の結果



## <四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16 問	B層 11~13 問	C層 8~10 問	D層 0~7 問
<b>江戸川小学校</b>	<b>7.7</b>	<b>19.5</b>	<b>19.2</b>	<b>53.8</b>
江戸川区 (区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都 (公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国 (公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

### 【平均正答率の差】

<b>江戸川小学校</b>	<b>45%</b>
江戸川区 (区立)	62%
東京都 (公立)	67%
全国 (公立)	62.5%
都との差	<b>22ポイント</b>

### 【分析結果と授業改善に向けて】

#### 【分析結果】

正答率が各領域で約20ポイント下回った。特に図形の理解、途中式や理由を説明する問題が低かった。図形の認識力・計算力の定着、途中式を説明する機会の充実が課題。

#### 【授業改善】

図形については、ICTを活用しながら空間認識を定着させる。低学年では、具体物操作を多く取り入れる。  
 計算力については、全学年、毎時間の導入時に四則計算問題「タイムアタック」に取り組みせ定着を図る。  
 途中式や理由を説明する力等については、授業の前半に既習事項を丁寧に確認し、設問に対し常に四則計算の何をを使って求めるとよいのかを確認し、その活用方法や理由を説明させることで育成を図っていく。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。